

評価結果公表票

作成日 平成19年10月2日

【評価実施概要】

事業所番号	272400805
法人名	株式会社成田建設
事業所名	グループホームいいいの里
所在地	五所川原市相内222-1 (電話) 0173-62-3470
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年8月1日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年1月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	13人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.2人

(2)建物概要

建物構造	平屋木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	780 円	

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 歳	最低 歳	最高 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立金木病院、市浦医科診療所、市浦歯科診療所
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して約2年ではあるが、各種書類や記録、マニュアル等が整備されているほか、ホーム内での勉強会や申し送り時等を利用して、職員間での知識やケア方法等の共有が図られている。  
 「ゆっくり一緒に楽しく過ごし家庭的な生活が送れるよう支援します。役割を持つことにより生きがいを感じる事が出来るように配慮します。第二の我が家として安心できる『いいいの場』を提供します。」という理念を全職員が共有しており、利用者のペースを尊重してゆったり接するほか、個々が得意とすることを役割として促したり、なじみの物品を居室に持ち込んでもらう等、日々のケアの中で理念の実践に努めている。  
 外部研修に職員を派遣するほか、他のグループホームへの見学、近隣の特別養護老人ホームとの情報交換等を通して職員の資質向上に努めるとともに、得られたことを日々のケアに反映させようと意欲的に取り組んでいる。

【特に改善が求められる点】

虐待の内容等については職員間での共有が図られているが、今後は虐待発見時の対応や報告の流れ等についての取り決めを作成し、それを全職員に周知する取り組みに期待したい。  
 災害発生時に備え、避難訓練を行う等の取り組みは行われているが、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等の備蓄品を用意してはどうか。  
 理念が作成され、職員間での共有が図られているが、地域との関わりを意識したケアをどのように提供していくか全職員で話し合い、地域密着型サービスの役割を加味した理念を掲げることに期待したい。  
 職員の更なる質の向上により計画的に取り組むため、職員の研修受講歴等を参考に、内部・外部研修の年間計画の作成に期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果について全職員で話し合いを行っており、短期・長期の目標を立てて改善に向けて前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は月1回の職員会議で評価の目的等について職員に説明しており、全職員が理解した上で自己評価の作成に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月毎に開かれており、会議の目的やグループホームの理解、ホームで実施する事業等についての周知を図っている。また、自己評価や外部評価の結果を報告しており、意見交換等が行われている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族が意見等を話しやすいよう、月1回の写真を掲載した手紙で暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、ホーム独自でアンケートを実施するほか、ホーム内の苦情受付窓口を周知している。また、家族から意見等が出された時の処理体制が定められている。外部の苦情受付窓口として利用者の家族が選任されているが、第三者である行政や国保連等の連絡先の明示にも期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の行事に積極的に参加するほか、ホーム行事に住民の参加を促す等、地域との交流が図られている。また、近所の中学生ボランティアを受け入れたり、中学校の運動会に招待を受ける等の関わりも持たれている。診療所等に配布しているホーム便りには認知症介護の用語説明のコーナーを設ける等、認知症ケアの啓蒙にも取り組んでいる。また、今後は地域貢献を目的とし、介護予防や認知症講座を住民向けに開催したいと意欲的である。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>職員全員で何度も検討を重ねて作成した理念が掲げられており、日々の業務に反映させるため、毎日の申し送り時に唱和する等の取り組みが行われている。</p> <p>外部研修受講後に行う報告会や、申し送り時に行う地域福祉権利擁護事業や虐待等の制度確認などを通して職員の資質向上を図るとともに、利用者へのより良いサービス提供に努めている。</p> <p>利用者への影響に配慮し、定期的な異動等を行われていない。職員の離職等があった時は新任職員との引継ぎ期間を1週間程度設けるほか、利用者への説明を十分に行う等、利用者が自然とホームに馴染めるよう支援している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用相談受付時には自宅訪問を行うほか、利用希望者や家族の話を十分に聞き、早くホームに馴染めるよう支援している。</p> <p>理念にあるように「ゆっくり楽しく家庭的な生活」が送れるよう、畑作り等の得意分野で力を発揮してもらうほか、収穫した野菜を食材として使用して喜びを共有する等、利用者と職員が共同して生活を送る関係作りが行われている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者や家族から収集した希望等の情報を毎日のミニカンファレンスで共有しており、その内容を基に月1回のケアカンファレンスで利用者本位の介護計画を作成している。また、再アセスメントを行った上で、3～6ヵ月を目安に見直しを行うほか、状態変化時はその都度の見直しを行っている。</p> <p>希望するかかりつけ医での受診支援を行い、受診結果は家族との共有が図られているほか、急変時も対応についても家族との意思統一が図られている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者がその人らしい生活を送れるよう、個々のペースや暮らし方への意向等を大切にケアを提供するよう努めている。また、利用者の意向を聞きながら買い物や外食に出かけるほか、利用者の体調等に配慮しながら花見等にも出かけている。</p> <p>安全かつ安心なサービスを提供するため、感染症予防等に関するマニュアルを整備したり、消防署や住民の協力を得て避難訓練を行う等の取り組みが行われている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、地域密着型サービスを「地元の人が地元で暮らす」と理解している。職員の意見を取り入れながら、理念をこれまで2～3回改定しているが、地域密着型サービスの役割を反映させたものとはなっていない。	○	地域との関わりを意識したケアをどのように提供していくか、全職員で話し合い、地域密着型サービスの役割を加味した理念を作成することに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の周知と共有のため、毎朝の申し送り後に職員全員で唱和し、意識付けを行っている。理念は職員に浸透しており、「一緒に楽しく過ごす」ことを特に意識し、積極的にレクリエーション等の楽しみごとを提供するほか、馴染みの物品の持ち込みを家族に働きかける等、職員間での連携を図りながら日々のケアを提供している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の祭り等の行事に参加するほか、ホーム駐車場で開催する芋煮会に参加を呼びかける等、住民との交流を図っている。また、地域の民生委員や町内会長には運営推進会議のメンバーとして参画してもらっている。利用者のプライバシーに配慮した上で、近くの中学生のボランティアを受け入れたり、保育所との交流を図るほか、診療所等に配布しているホーム便りには介護の用語説明のコーナーを設けて認知症ケアの啓蒙を図る等の取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月1回開催している職員会議で評価の目的等を説明しており、職員はねらいや活用方法を理解している。自己評価を作成する時には管理者と職員と一緒に取り組むほか、前回の評価結果に関する改善点についても職員全員で話し合い、短期・長期の目標を立てて改善に向けて取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヵ月ごとに運営推進会議を開催しており、メンバーである町内会長や民生委員、家族、在介職員等には参加を促している。毎回テーマを決めて話し合いを行っており、会議録も作成されている。また、自己評価の結果や外部評価の結果についても報告し、意見交換を行っている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを行政窓口に配布するほか、外部評価の結果を報告している。また、在介に勉強会の開催を働きかける等、積極的に行政との連携を図ろうと取り組んでいる。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業等の概要について申し送り時等を活用して全職員に周知しており、権利擁護事業等の利用希望者がいる場合には開始へとつなげることができるよう備えている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	インターネット等で虐待に関する資料を収集し、申し送り時に口頭で周知している。また、会議等では日々の業務の振り返りを行い、虐待のないケアに努めているが、虐待発見時の対応や報告の流れ等についての取り決めを作成するまでには至っていない。	○	全職員で話し合い、虐待発見時の対応方法や報告の流れ等の取り決めを作成し、それを全職員で共有する取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書に基いて理念やケアの方針等について懇切丁寧に説明しており、利用者や家族の疑問にも対応している。また、退居時にも利用者や家族に理由等を説明し、必要に応じて退居先等の支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、家族宛のたよりを作成しており、利用者の日頃の様子や受診内容、行事の際の写真、職員の異動等について掲載している。また、金銭管理状況は個人ごとに記録し、領収書を添付して毎月家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望等がないか声がけしたり、重要事項説明書にホーム内の苦情受付担当者を明示するほか、ホーム独自で家族アンケートを実施している。家族から意見等が出された時の処理体制も明確に定められているが、外部の苦情受付窓口が利用者家族となっており、第三者の苦情受付窓口に関する周知は行われていない。	○	すべての家族が苦情や意見を話やすいよう、行政や国保連の連絡先も明記し、家族への周知に努めてはどうか。
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考慮し、定期的な異動等は行っていない。職員の離職等があった時は、利用者が自然とホームに馴染めるよう十分に説明するほか、新任職員との引継ぎの期間を1週間程度設け、一緒に業務を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員が年1回は外部研修を受講できるよう配慮しており、受講後は報告書を作成するとともに、資料を添付し、テーマに応じて回覧または報告会を実施している。職員の研修受講管理表を作成し、受講歴を把握しているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	これまで研修を主催した団体に問い合わせ等の取り組みを行い、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会の学習会に参加するほか、他のグループホームを見学したり、近隣の特別養護老人ホームと情報交換を行っており、そこから得られたことは日々のケアに反映させようと意欲的である。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付時には利用希望者の自宅訪問を行うほか、利用希望者や家族の話を十分に聞き、早くホームに馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念に掲げているように「ゆっくり楽しく家庭的な生活」が送れるよう、利用者と職員が笑いあったり、利用者の意向を尊重する等の取り組みが行われている。また、調理の準備や茶碗拭き、炊作り、洗濯ものたたみ等の得意分野では利用者に協力してもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や会話から利用者の希望等を把握するよう努めるほか、面会時に家族から情報収集を行っている。また、アセスメント様式には利用者の好き嫌いや興味等について記録する欄があり、そこから個々の意向等の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から希望等の聞き取りを行っている。毎日ミニカンファレンスを行って職員の気づき等を共有し、その内容を基に月1回のケアカンファレンスを開催し、利用者や家族の希望を取り入れて介護計画を作成している。計画には利用者ごとの課題やケア内容等が詳細に記載されている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3～6か月ごとに見直しを行っており、見直し時には利用者や家族の意向等について再アセスメントを行っている。また、毎日のミニカンファレンスで利用者の状況について話し合っており、状態変化等がある時にはその都度の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて地域の商店に外出するほか、通院や理美容院への送迎を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に病歴等を把握しており、利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。また、かかりつけ医にはいつでも相談することができる。受診結果は毎月のたよりで家族に報告しており、情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期には対応していないが、急変時等のケアについては家族との意思統一が図られており、かかりつけ医での対応となっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳が守られるよう、声がけや言葉使い等について職員間で定期的話し合いを行っており、利用者の言動を否定することなく、個々に合った呼称で呼ぶ等の対応を行っている。また、個人情報に関する書類等は訪問者の目につかない場所に保管する等の配慮が行われている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時等、利用者を急かすことなく、利用者の話に耳を傾け、個々のペースを大切にした対応を行っている。また、一日の過ごし方への意向を把握しており、その意向を尊重したケアが提供されている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握した上で献立を作成しており、必要に応じてきざみ食等を提供している。個々の希望や力量に応じて食事の準備や後片付けを手伝ってもらったり、職員も利用者と一緒に食事を摂る等、楽しめるよう工夫している。また、食事中は水分摂取を勧める等のサポートを行うとともに、会話を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回となっているが、一人ひとりの希望に合わせて入浴日以外でも対応している。利用者の入浴習慣を把握しており、事故等がないよう必ずさりげない見守りや介助を行っている。入浴を拒否する利用者には足浴や清拭等で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なこと等を把握しており、畑作りや食事の準備等を行ってもらっている。また、収穫した野菜等は食材として取り入れる等、喜びや楽しみにつながるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が希望するお菓子を買うために駄菓子屋に出かけたり、外食の機会を設けている。また、買い物や散歩、花見等にも出かけており、利用者の希望や体調等に配慮しながら積極的に外出の機会を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容等について申し送り時に職員間で確認しており、拘束の無いケアを実践している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠しておらず、外出傾向のある利用者に対しては見守りを行っている。過去に帰宅願望が強い利用者がいたが、家族の協力を得て外泊の機会を増やす等の取り組みにより、無断外出をする利用者がいなくなる等の成果が見られている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路や避難場所等が明記されたマニュアルが作成されている。年3回の避難・消防訓練を行っており、消防署の協力を得たり、住民に参加してもらうほか、夜間を想定した訓練も行っているが、災害時に備えた食料等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害発生時に備え、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意しておくことに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病により食事の調整が必要な場合には医師に相談するほか、食事や水分の摂取量を記録している。栄養バランスを考慮して献立を作成しているが、摂取カロリーの把握を行うまでには至っていない。	○	健康維持や疾病の早期発見・対応のために、一日の摂取カロリーを把握することに期待したい。保健所等から定期的に献立に関する助言をしてもらう等の取り組みを検討してはどうか。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防等に関する詳細なマニュアルが作成されており、必要に応じて見直しが行われている。また、感染症等について定期的に学習会を開催し、発生時に適切に対応できるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングにはソファや観葉植物が置かれており、家庭的である。職員の声のトーンやテレビ等の音量も適切であり、天窓からは自然光が十分に差し込んでおり、適度な明るさが保たれている。また、季節の花を飾ったり、ねぶたの飾りを施す等、時季への配慮も行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている物品等を持ちこんでもらうよう、入居時等に家族に働きかけており、家族の写真や絵、遺影、仏具等が持ちこまれ、個々にあった居室となっている。		

※  は、重点項目。